

第五回

答口祐和了會

平成二十九年

九月二十八日(木)

午後四時三十分 開場

五時 開演

国立劇場大劇場

特別出演

片岡 孝太郎

尾上 右近

片岡 千之助

市川 團子

市川 中車

一、連

獅子 長唄囃子連中

市山七十世振付

狂言師右近
後に親獅子の精
狂言師左近
後に仔獅子の精

片岡 孝太郎
片岡 千之助

一、再春松種蒔

種蒔三番叟 清元連中

山中隆成 美術
池田智哉 照明

三番叟 谷口裕和
千歳 尾上右近

二、上、藤

娘 長唄囃子連中

藤の精 市川中車

下、越後獅子

長唄囃子連中

角兵衛獅子 市川團子

一、京鹿子娘道成寺

竹本連中
長唄囃子連中

道行から鐘入りまで

白拍子花子 谷口裕和

演奏出演者

竹本連中

清元延寿太夫 連中
清元志寿造 連中

松永忠次郎 連中
松永忠一郎 連中

堅田新十郎 社中

◇御観劇料

一等席 一五、〇〇〇円
二等席 八、〇〇〇円
三等席 四、〇〇〇円

前売開始 八月三日(木)

Webチケット予約

e+(イープラス)
<http://eplus.jp>

◇お問い合わせ

谷口裕和事務所
〇三(三七七四)〇〇五九

後援

高山市

協力

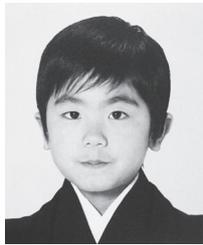
松竹株式会社



谷口裕和



市川中車



市川團子



片岡千之助



尾上右近



片岡孝太郎

第五回 谷口裕和の会

「連獅子」 しれんじし

能の『石橋』を元にした勇壮な親子の獅子の舞踊です。狂言師の右近、左近が手獅子を持って現れます。白い毛の獅子が親、赤い毛の獅子は仔で、獅子の子落としの伝説通りに、仔獅子を谷底に突き落とす様を見せます。獅子は這い上がってきた強い子供だけを育てるので仔獅子は、なかなか谷を登ってきません。親は密かに案じ、そと谷底をのぞき込むと、仔獅子が親の姿を見つ、喜び勇んで駆け上がってきます。その後、白頭と赤頭の勇壮な獅子が登場し、長い毛を勢いよく振ります。前段の親子のしみじみとした情愛と後段の獅子の勇ましい毛振りが見どころの舞踊です。

今回初となる孝太郎丈と千之助丈での親子共演 幕開きにふさわしい華やかな舞台をご覧ください。

再春松種蒔

「種蒔三番叟」

したねまきさんばそう

能楽の『翁』を元にした作品で、儀式性の高い舞踊です。天下泰平、国土安穩の祈りを捧げて舞います。「採の段」では、足拍子を力強く踏み、地固めし、鈴を受け取ると「鈴の段」になり、鈴を振りながら種まきの所作などを見せ、五穀豊穡を祈る神聖な踊りです。

今回は、谷口裕和の三番叟に加えて、第四回谷口裕和の会で清元「三社祭」を軽快に踊り好評を博した尾上右近丈の千歳で、清元には右近丈の父である七世宗家清元延寿大夫との、親子共演も見どころであります。第五回の節目の公演を寿ぐ祝儀舞踊です。

上、「藤娘」

ふじむすめ

下、「越後獅子」

えちごじし

歌舞伎舞踊の中でも馴染みの作品です。藤娘の元は黒塗りに笠に藤の花の枝を肩に担いだ娘を描いた素朴な「大津絵」の一枚の絵をヒントにしたものでしたが、舞踊の名人六代目尾上菊五郎によって藤の花の精として演じられ、可憐で華やかな人気曲となりました。近江八景を詠み込んだ「クドキ」では、笠を使い娘心の切ない恋心を描き、ゆつたりとした音頭の「潮来」では、風に揺れる藤の花を思わせます。そして最後は華やかな手

踊りから、過ぎゆく春を惜しむ夕暮れの景で藤の精は姿を消し、引き続き背景は、江戸・日本橋へと変わります。

越後の国から出て来て、軽業などの芸を見せていた大道芸人のことを角兵衛獅子と呼んでいました。この作品は、故郷を離れた旅芸人、越後獅子の風俗を取り入れたものです。頭に獅子頭を付け、太鼓を打ちながら踊り出します。しみじみとした旋律で越後名物について聞かせ、浜唄、手踊り、そして綾竹を器用に扱い、最大の見せ場は、足拍子で軽妙にリズムを刻みながら長い布晒しを軽快に振ります。二曲とも大変に人気曲です。今回は、中車丈の藤の精、團子丈の角兵衛獅子ともに初役で、上下続けての演出により親子共演が楽しい演目です。

「京鹿子娘道成寺」

きょうかのこむすめどうじょうじ

歌舞伎舞踊の代名詞のような大曲です。多くの舞踊の名人が手がけてきたあらゆる踊りの要素が盛り込まれています。安珍清姫の伝説は、能の「道成寺」となり、さらに歌舞伎に採り入れられ多くの作品を生み出しました。曲の内容は、能にならって新しく建立された釣鐘の供養に、清姫の怨念は白拍子となって現れ、再び鐘に取り憑くというものです。眼目はさまざまに曲調を踊り分ける娘の姿にあります。「道行」からはじまり、「烏帽子渡し」釣鐘に心を懸けつつ莊嚴に舞う能がかりの「乱拍子」急の舞。つづいては一転して娘姿の可憐な「手踊り」、吉原や島原などの廓の名前を詠み込んだ「鞠唄」。自らが花になったかと思わせる三段笠を用いた「花笠の踊り」。曲の聞かせどころでもある、手ぬぐいをつかっつて三様の女の恋心を描く、くどきの「恋の手習」。鞆鼓を打ち鳴らし拍子をとりながら長唄・囃子方との呼吸をはかりながら踊る、和歌に詠まれた日本の山々の名を詠み込んだ「山づくし」。再び娘の愛嬌を描く「ただ頼め」の手踊り。そして蛇の本性を垣間見せる「振り鼓」を持ち早間の緊張感のある踊りから「鐘入り」し、見る者にも、演じる者にも息をつかせぬ変化に富んだ踊りの醍醐味を味わえる作品です。

今回は大劇場ということで、釣り鐘に全山咲き乱れる桜の花という華やかな歌舞伎の舞台装置はそのままに、素踊りでの上演です。華やかな歌舞伎舞踊の世界を観る方に想像していただけるよう、踊り手の技量が問われる舞台です。

国立劇場大劇場

〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1

地下鉄をご利用の場合
 ■(半蔵門線 半蔵門駅) 下車1番出口/6番出口から 徒歩約5分
 ■(有楽町線/半蔵門線/南北線) 永田町駅下車4番出口から 徒歩約8分
 バスをご利用の場合
 ■都営バス 都03(晴海埠頭-四谷駅) 宿75(新宿駅西口-三宅坂) 三宅坂 下車徒歩 約1分
 お車をご利用の場合
 ※駐車場は収容台数に限りがございます。なるべく公共交通機関をご利用ください。



題字 川邊りえこ

創業寛政六年 宗和流本膳

飛騨高山 料亭 洲さき

高山市神明町四丁目十四番地
電話(0577)330023